

○ 提案募集に当たっての提案内容

※平成30年12月12日付け諮問第2043号

- 空間伝送型ワイヤレス電力伝送システムの各種用途につき、想定される運用形態と、当該運用を図る上での電波利用の要求条件（送受信距離、伝送される電力量、送電時間等）
- 当該要求条件を達成する上で必要となる技術的条件（周波数、空中線電力、占有周波数帯幅、変調方式、チャンネル数等）

○ 募集期間

平成31年1月17日（木）から平成31年2月1日（金）

○ 提案提出者一覧（全3者）、実用化時期、ユースケース

提案提出者	提案された 実用化の時期等	提案されたユースケース （出力は空中線電力）
ブロードバンドワイヤレスフォーラム（BWF） ワイヤレス電力伝送WG（WPT-WG）	第1ステップ 2020年実用化	屋内利用 1W～32W ・ IoTセンサーネットワーク、モバイル機器への給電
	第2ステップ 2022年頃実用化	屋内・屋外利用 5W～32W ・ 屋外を含むIoTセンサーネットワーク、モバイル機器への給電
	第3ステップ以降	屋内・屋外利用・大電力 ～kWクラス ・ スマートモビリティ、ロボット・ドローンへの給電・充電 ・ 災害時の電力供給等
パナソニック株式会社、オムロン株式会社、 株式会社東芝、電気興業株式会社、 新潟大学、信州大学、岩手大学、 千葉大学	事業化時期の目標 2024～2025年 制度化検討 2022～23年	広範囲のセンサへの小電力供給 0.25W～5W ・ 工場内の生産及び品質管理 ・ エイジフリー事業における監視 センサ及びモバイル機器への中電力給電 5W～32W ・ 工場におけるセンサやロボットへの給電 ・ インフラ点検 ・ モバイル機器への給電
東京電力ホールディングス株式会社、 三菱電機株式会社、京都大学	想定する実用化時期 2030年代	屋外でのマイクロ波によるドローン等への給電 1kW ・ インフラ点検、物流、農業や非常災害時対応等への活用